

住民の避難行動に結びつく情報発信のために

R5.12.5

～「近畿地方メディア連携協議会 現地見学会」を開催しました～

近畿地方整備局 河川部 水災害予報センター

- 近畿地方メディア連携協議会は近畿地方整備局・大阪管区气象台・各メディア報道関係者で構成しており、住民の避難行動に結びつく情報発信を目指して活動しています。
- 令和5年12月5日(火)に、大阪管区气象台 現業室にて、予報を発表するまでの一連の流れについて説明を受けました。また、一庫ダムの役割や異常洪水時防災操作(緊急放流)の勉強会及び堤内の現場見学を実施しました。

近畿地方メディア連携協議会 現地見学会の概要

- 日時: 令和5年12月5日(火)13:30～17:00
- 見学場所: 大阪管区气象台、一庫ダム(水資源機構)
- 出席者: 15名 うちメディア出席団体: 3社(計5名)

(出席団体)株式会社毎日放送/読売テレビ株式会社/株式会社 ベイ・コミュニケーションズ
(事務局)近畿地方整備局、大阪管区气象台
(参加機関)水資源機構

現地見学会の様子について

- 大阪管区气象台 現業室
(説明: 大阪管区气象台 海老主任予報官)



- 一庫ダム (水資源機構)
(説明: 一庫ダム管理所 阪元所長)



主な質疑内容

【主な質疑事項】

- 一庫ダムの洪水調節については、暫定操作との事だが今後の計画については。
 - 下流河川の安全度の向上に伴い、放流量も増加でき、洪水調節計画を変更することとなる。
- 緊急放流の1h、3h前の通知の意味は。また、どのタイミングで緊急放流を行うのか。
 - 1h、3h前は、自治体の避難の判断、実避難に必要な時間のイメージ。
緊急放流は貯水位の予測を行い、必要と判断されれば、所定の手続きや事前通知の後に速やかに実施。
- 一庫ダムで緊急放流を行った場合、どの辺りが危険なのか。
 - その時々状況により一概に言えない。その時の放流規模や下流河川の水位の状況により異なる。

【問合せ】国土交通省近畿地方整備局水災害予報センター
〒540-8586大阪府中央区大手前1-5-44 TEL06-6942-1141(代表)



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト